

ねりま区報

➡ 6/21 令和6年(2024年)

第2047号 毎月1日・11日・21日発行

発行/練馬区 編集/広聴広報課
〒176-8501 豊玉北6-12-1
☎3993-1111(代表) FAX 3993-1194
https://www.city.nerima.tokyo.jp/

7/7(日)は
東京都知事選挙

投票時間は午前7時～午後8時です。
▶問合せ:選挙管理委員会事務局
☎5984-1399



6月10日に第二回区議会定例会で前川区長が所信を表明 心豊かに生活を楽しめるまちに

はじめに

元日の能登半島地震の発生から5カ月余りが経ちました。今なお、多くの方々が日常生活を取り戻せずにいます。一日も早く平穏な暮らしに戻れるよう心から願うとともに、引き続き支援に取り組んでいきます。

区は攻めの防災を加速しています。

密集事業を実施している桜台東部地区では、3月に防災道路1号線の現況測量に着手しました。貫井・富士見台地区では、主要生活道路1号線沿道の用地の一部と、富士見台駅北側の広場用地を取得しています。

4月から両地区に加え防災まちづくり推進地区の旧耐震住宅に対する助成を拡充し、5月には全戸に周知チラシをポスティングしました。また区内全域を対象に、いわゆる2000年新耐震基準を満たさない住宅の助成制度を創設しました。5月末時点で簡易耐震診断の受付件数は、昨年度年間実績の2倍を超え、住宅の安全性への区民の関心は高まっています。

訓練でできないことは、本番でもできません。実戦的な訓練を積み重ねて、いざという時に備えます。3月に、スタンドパイプなどを使って初期消火を体験できる「まちかど防災訓練車」を導入しました。5月末までの2カ月間に各地域の訓練で既に27回

活用されています。今月、区立施設やコンビニなどへの消火用スタンドパイプの設置を開始します。

平時からの備えも必要です。来月から、携帯トイレ、アレルギー対応食、口腔ケア用品など生活必需品の備蓄を順次増やすとともに、備蓄倉庫を新たに高松と石神井台の2カ所で整備します。

1月に着手した避難行動要支援者の個別避難計画は、5月末までに要支援者約3万2000人のうち、8,244人が作成しました。引き続き、関係者のご協力を頂きながら作成を進めていきます。

4月には台湾東部で大規模な地震が発生し、防災意識は更に高まっています。私は、区民の生命と財産を守る基礎的自治体の長として、区民の皆様と力を合わせ、攻めの防災の先頭に立って取り組んでいく決意です。

子育て施策

●保育サービスの拡充

区独自の幼保一元化施設「練馬こども園」の創設、「待機児童ゼロ作戦」の展開などにより、10年間で全国トップクラスとなる9,200人以上の保育定員増を実現し、4年連続で保育所待機児童ゼロを達成しました。

区立直営保育園30園で、おむつに続き、「エプロンのサブスク」を開始しました。私立園等でも90園以上でサブスクを導入しています。引き続き、保護

者の負担軽減と利便性向上に取り組んでいきます。

全国初となったLINEを活用した保活支援サービスや、電子母子手帳アプリに続き、4月には、「ねりま子育て応援アプリ」の提供を開始しました。これにより、妊娠、出産から子育て期に至るサービスについて、ICTによる情報取得と利用手続が可能になりました。

●学童クラブ待機児童対策

4月に区立小学校7校で「ねりっこクラブ」を開設し、8年間で学童クラブの定員は、2,300人以上拡大しました。区独自の待機児童対策「ねりっこプラス」は、34校で実施しています。特別支援学級のある小学校のねりっこ学童クラブでは、障害児受入れ枠を拡大しました。保護者の利便性を向上するため、今月、電子連絡帳アプリを導入し、欠席・早退などをスマホ等で連絡できるようにしました。秋には来年度の入会申請がオンラインで可能になります。

来年度は、全校実施に向け3校でねりっこクラブを開設します。本定例会に、「練馬区ねりっこクラブ条例」及び「練馬区立学童クラブ条例」の改正案を提出しています。

2面へ続く